

小児生活習慣病健診より得られた小学4年生の体格に影響する因子

メタデータ	言語: jpn 出版者: 日本DOHaD研究会 公開日: 2018-03-09 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 尾崎, 貴視, 濱野, 弘一, 福岡, 秀興 メールアドレス: 所属:
URL	http://hdl.handle.net/10271/3266

小児生活習慣病健診より得られた小学 4 年生の体格に影響する 因子

○尾崎貴視¹⁾²⁾、濱野 弘一²⁾、福岡秀興²⁾

三豊・観音寺市医師会¹⁾

早稲田大学理工学術院理工学研究所研究院²⁾

【目的】香川県観音寺市及び三豊市では毎年小児生活習慣病健診が行われており、同健診データから、対象学童の体格に影響を与える因子を検討した。

【方法】2013 年度から 2016 年度に当地域で小児生活習慣病健診を受けた小学 4 年生のなかで、満期産で出生している 3244 例を対象とした。健診ではアンケートにおいて周生期の情報を母子健康手帳より転記させ、対象学童の体格に関連する因子につき多変量解析を行って、対象学童の体格への影響度を調べた。また、対象学童の母の体格につき検討を行った。

【結果】小学 4 年生の体格に関連する因子として有意なものは、妊娠前 BMI、満腹まで食べる、早食い、生後 10 か月の体重増加量、出生体重、運動、睡眠時間であった。また、対象児童の母が妊娠する前の体格は、肥満が 13.8%で、やせが 13.6%であった。

【考察】小学 4 年生の体格に最も影響力があるのは、妊娠前の BMI であった。すなわち、太った母からは太った子どもが育ち、やせた母からはやせた子どもが育つ。この度の結果では、母の妊娠前体格をみると、肥満とやせはほぼ同頻度で存在し、肥満のみならず、やせも同様に大きな問題であると考えられた。母に肥満がある場合、耐糖能異常の有無にかかわらず次世代の肥満や耐糖能異常に関連する。一方、母のやせは早産や低出生体重児、児の NCDs のリスクを生じ、しかも、受精時の栄養状態が既に関与しているとも言われている。現在の日本において妊娠期を迎える女性のやせは社会的問題である。この度の検討では、やせた母から児の肥満はみられなかったが、今後も NCDs の発現に注意して見守る必要があると考えられる。